

第2回 たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会 が開催されました

2014年7月5日(土)14時～16時、国立看護大学校（東京都清瀬市）において、第2回目の「たま エンド・オブ・ライフ・ケア交流会」が開催されました。今回は「地域連携の現状と方向性」をテーマとし、病院・訪問看護ステーションの看護職・理学療法士・管理薬剤師・医師の総勢35名にご参加頂きました。地域相互の「顔」を知り、今後の課題や要望を話し合うことができました。

①本交流会代表からのご挨拶

交流会開催2回目にあたり、地域交流を継続する意義について説明がありました。

（救世軍清瀬病院 看護部長 笠原嘉子）それぞれのお立場から、「現状と課題」の話題提供を頂きました。



②地域連携の現状と課題

退院調整看護師の立場から 国立病院機構 東京病院 野上智絵氏
訪問看護師の立場から 佐々訪問看護ステーション 榎村明美氏
東本町訪問看護ステーション 岩田智子氏

③グループでの話し合い

参加者は約6名のグループに分かれ、各職場での現状を紹介し、今後の課題と展望を話し合いました。グループで話し合った内容は、会場全体で共有しました。看護職・薬剤師・理学療法士・医師といったそれぞれの職種の立場からも、活発な意見交換が行われました。

（司会・ファシリテーター：東久留米白十字訪問看護ステーション所長 中島朋子）



参加者の感想

「地域の方々の現状がよく分かり、勉強になりました。顔の見える関係は大切と思いました。」
「自施設での現状を振り返り、今日の話をも自分の中で整理して、連携を円滑にする方法を臨床で活かしたいと思いました。」
「入院前・退院後の生活を見据えて向き合った上で看護を提供できているか、日々ジレンマを感じていました。交流会に参加でき、病棟看護師の役割が分かり、交流会の学びを実践して行けるように取り組みたいと思っています。」

次回のご案内

日時：2014年11月8日(土)14:00～16:30

場所：国立看護大学校

テーマ「退院調整・退院支援の工夫」

病院の方から、退院調整・退院支援について話題提供を頂く予定です。詳細はホームページ <http://tama-elc.umin.ne.jp/>にも掲載します。

メンバー一同 次回もお待ちしております。

企画準備・受付・ファシリテーター・写真撮影 等
笠原嘉子・大石恵子・相良君映（救世軍清瀬病院）
河正子（NPO法人緩和ケアサポートグループ）
中島朋子（東久留米白十字訪問看護ステーション）
飯野京子・山手美和・綿貫成明・小山友里江
（国立看護大学校）